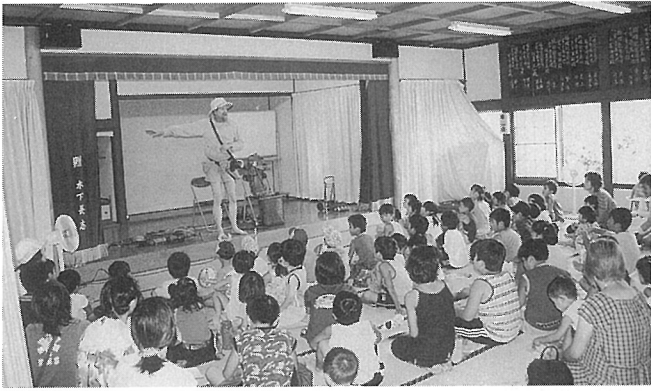


人形劇フェスタ2002

「家族再発見」地区公演大盛況



竜丘地区では、二日午後七時から時又会場を皮切りに、三日に上川路、長野原、四日に駄科、桐林竜丘公民館で上演されました。

時又会場では、北海道の元気のいいおばちゃん達のおしゃべりや、テンポの良い曲にあわせて魚やクレヨンが踊る「おはようクレヨン」「おさかな天国」、そして泡の中にかくれている動物を子どもたちに問いかけながら進んで行くパネルシアター「あわぶくかくれんぼ」など、劇に子どもたちが吸い込まれていきました。

駄科会場では、いいだ人形劇団ミ〜ルの方々の「きつちんばとるーおかつては大さわぎ」と「こわ〜いいな

「きつちんばとる」ではじゃがいもさんが悪いねずみにかじられてしまい、それを見たお勝手の仲間たちが、じゃがいもさんの敵討ちをしようと頑張ります。

一つ一つの人形がとてつもない動きをして、文字通り大さわぎで、特にボクシングのシーンは、スピード感あって最高潮に盛り上がり、思わず子どもたちも熱くなって応援していました。

次の人形劇は、アメリカのグレゴ音楽一座が上演した「グレゴ博士の時間旅行大冒険」でした。

「むかし、むかし、とおく、とおく、とおく」から始まるグレゴ博士の流暢な日本語のおしゃべりを中心に展開されました。

時には笑いを誘い会場の子どもたちに問いかけるような動き

し」が上演されました。

「きつちんばとる」ではじゃがいもさんが悪いねずみにかじられてしまい、それを



今夏の猛暑の中、恒例の「いいだ人形劇フェスタ2002」が、「家族再発見」のテーマを共有し「世界を共有しませんか」をテーマに八月一日から四日まで、飯田市各地区、それぞれの会場ごと、海外や日本各地の劇団が、熱いステージを観せてくれました。



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口	6,783人
男子	3,343人
女子	3,440人
世帯数	2,101戸
(14年8月末現在)	

鈴岡城址を学ぶ ―市民大学講座第一講―

去る七月十八日に市民大学講座第一講が、八十余名の参加者が集まって開講されました。

講師に県立歴史館学芸部長の郷道哲章先生を迎え「鈴岡城VS松尾城」と題して、城址の見方などの話がありました。

最初に郷道先生が、当地方在住の際に実際に撮ったスライドを通して説明されました。下伊那地方は史跡の宝庫であることを改めて実感する事ができました。

鈴岡城をはじめ、下伊那地方は段丘の上に幾つも城が有った点が、県下でも例の為に準備して下さったスタッフ、実行委員の皆さんのおかげと感謝しなければいけないと思います。

この熱いステージで観たものがきっかけとなって、家族の語らいが増えるならば、テーマにある「この世界の共有しませんか」が達成できたことになるのではなんでしょうか。

ところで、来年のいいだ人形劇フェスタは、五周年を迎え、アジア国際人形劇フェスティバルとして、開催されます。アジアの人形劇団との新しい出会いに期待しましょう。

そして、飯田のこの人形劇フェスタが地域の発展に貢献し、環境文化都市飯田が名実ともに、豊かな文化を高揚していくことが出来ればうれしいことです。

地域の実行委員の方々のご苦労が次第に報われる日が近づいてくるような気がして来ました。



今年の時又灯ろう流しでちょっとした事件がありました。気が付いた方も多しと思えますが、夕方六時過ぎの予定の宵打ちが七時過ぎになり、本打ちも大幅に遅れたということでした。

原因は、龍江側の桜街道で多くの方がシートを広げて見物しようとしていたことにあると見えます。実行委員の話では、桜街道のマレットゴルフ場入口付近から天竜橋側は花火の危険区域になっており、立入禁止の看板を出してあったとのことですが、それにも関わらず多くの見物客がいたため、大方の移動が終わるまで警察が花火の打ち上げを許可しなかったとのことでした。

本部では、何回もマイクで呼びかけていましたし、警備の方も移動してもらったようですが、既に重箱を上げ一杯やっている方々がすぐ移動してくれるはずもなく、逆に罵声を浴びたことでした。

危険区域の告知は夕方まで看板だけで、警備員が配備されたときは、既に多くの人が場所取りをしていたようので、警備の不十分さも責められるべきですが、看板の数も多かったようですし、「毎年同じことを言うな」との罵声もあったとのことですから、多くの方は立入禁止ということを知っていたようです。ただいい場所では花火を見たいという考えで行動し、そのせいで花火の打ち上げ自体ができないという説明に耳を貸さないということに矛盾を感じないのでしょうか。警備員だらけの祭りになったら花火見物も楽しくないの、と思いませんか。

親子映画会 「ダイオキシンの夏」

彼らの町にある化学工場が、ある日大事故を起こした。この事故によって、町には大量のダイオキシンが降り注ぎ、小鳥、ペットが次々と倒れ、とうとう人間の健康を脅かした。ダイオキシンは、大切な家、人間らしい心までも奪っていった。

七月十三日(土)竜丘公民館で親子映画会がおこなわれ、「ダイオキシンの夏」を鑑賞しました。

土曜日の夜にもかかわらず、二百人余りの親子が、この映画を観に訪れ、竜丘地区の環境に対する関心の



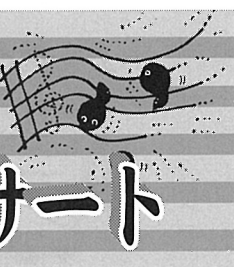
この映画会を共催した、PTA父親母親委員会代表の宮島さんは「一度、環境問題についてとりあげ、ゴミの分別など自分たちでできることは何か。子どもたちに感じてほしかった。」と、語っていました。

当日参加した方々に感想を伺うと「改めてダイオキシンの恐ろしさを感じた。」「この映画を見て、ダイオキシンの事を子どもと勉強する良いきっかけになった。」「ダイオキシンという本当に恐ろしいものを、人の生活の為に人がつくり、人の命を奪ってしまっている。」「などでした。

この映画会を共催した、PTA父親母親委員会代表の宮島さんは「一度、環境問題についてとりあげ、ゴミの分別など自分たちでできることは何か。子どもたちに感じてほしかった。」と、語っていました。

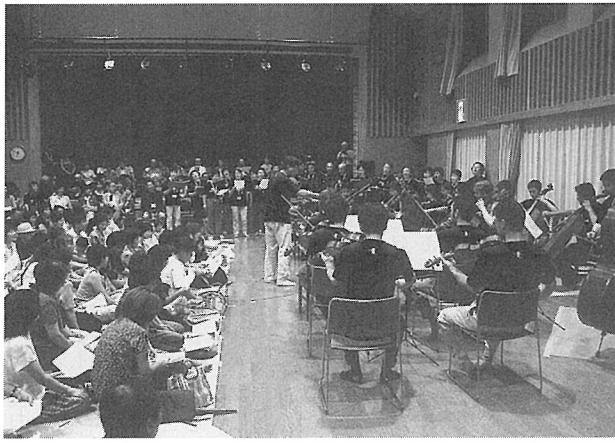
今年も感動に浸った

ファイニスくつろぎコンサート



八月十八日(日)ファイニス夏の音楽祭の「くつろぎコンサート」が、竜丘公民館大ホールで開催され、心待ちにしていた家族連れなど約四百人の皆さんがクラシック音楽を堪能しました。

オーケストラの若手団員を対象とした短期セミナーとして始まった「ファイニス夏の音楽祭」も今年で十四回を数え、年々企画も充実してきました。「ファイニス」は花の名前「ニコチアナ・ファイニス」(花たばこ)に因んでいます。この「くつろぎコンサート」は音楽祭に参加している講師陣、受講生が文化会館などから地域に出向き、ラップセツション(おしゃべりコンサート)を通じて、市民と身近にふれあいがら、一緒にクラシック音楽を楽しむ企画です。



昨年引き続き二回目の開催となった竜丘には、ケルン西ドイツの「フライパン狂奏曲」に参加してもらったり、竜丘小児童とモーツァルトの「おもちゃの交響曲」を演奏するなど、リラックスした雰囲気の中で子どもたちは素晴らしい「ふれあい」も実現しました。

コンサートは午後五時から竜丘コーラスグループとの共演で幕を開けました。その後は、シューベルトの「軍隊行進曲」メンデルスゾーンの「弦楽三重奏曲」など、親しみやすい名曲を次々に奏で、観客は終始魅了しました。

ることができました。またコンサートの最後には「夏の思い出」を皆で大合唱し、一体感を味わいました。

連続テレビ小説「さくら」の舞台 飛騨古川町を訪ねて

去る七月二十日、文化委員会が幹事となり公民館委員研修旅行が行われました。今回は、集合時刻五時四十分、出発時刻五時五十分とこちらもユニークな旅の始まりでした。バスは、中央道を北上、松本インターから安曇村を通り安房トンネルへ向かいました。かつては峠越えの険しい道でしたが快適に乗鞍岳、鶴ヶ池へ向かいました。

平湯峠から標高二千七百二メートルの畳平を結ぶ乗鞍スカイラインは、日本一の標高を走る山岳道路。雲上のドライブコースとして人気のあるこの道路は、来



十二代当主から生原酒をいただきながら説明を受け、こつこつと酒造り一筋にこの心意気が語られました。この日、関東甲信越地方は梅雨明けを宣言、飛騨のさわやかな空気に触れ、委員の皆さんの心も和み、思い深い一日となりました。

ニュースポーツ ドッチビー講習会

松枝 彰 人
体育委員長

去る七月二十八日竜丘小学校体育館に於いて、ドッチビー講習会が行われました。

ドッチビーは、今年度Cブロック冬期大会で前年度までのソフトバレーボールに代わり採用されたニュースポーツです。

ボールの代わりにスポンジ状のソフトディスクを使ったドッチボールで、Cブロックのルールは一チーム、男性五人、女性五人の十人で、試合時間は十分間、試合中に内野に人がいなくなったら負け、十分間闘った後、内野に残った人数が多い方が勝ちとなります。



ふるさと自然と歴史・再発見 初夏の親子ふれあいハイキング

鈴岡公園が明治時代に開園した頃は、頂上付近に樹木は全くない坊主頭であったことなど、時の移り変わりを感ずりました。また、道すがら、雨に濡れてより濃さを増した初夏を彩る草花が、目を

五月に、雨天中止となった春の親子ふれあいハイキングが、「ぜひ開催してほしい」との声にこたえて、初夏の親子ふれあいハイキングとして、七月十三日に開催されました。

この日も、あいにくの雨模様で中止も検討されましたが、集まった皆さんの熱意で行うことになりました。今回は、鈴岡く駄科散策コースです。このコースは古墳、城址、寺社が点在しています。駄科諏訪神社には、大正時代まで総二階のまわり舞台があったことや、



このスポーツは、小学生から大人まで、手軽に安全に楽しむことが出来ます。地域の軽スポーツとして、やってみたい方はぜひ公民館まで連絡して下さい。

第四十二回社会教育研究全国集会 沖縄大会に参加して

長野原分館長 小林 泉

「スリサーサー! 沖縄へ」 ジンブンよせあって、二十一世紀の自治・文化・地域社会を創ろう!

八月三十日から九月二日まで行われた今大会は、初めて沖縄で開催されました。大会の性格は、公民館活動に関わっている者と言うよりは、仕事として社会教育や公民館の場で関わっている人達の研究(勉強)の場と言えるでしょう。

今回、私の立場は、現在やっている公民館活動と過去の活動も含め、その活動

経過と思いを、「事例発表」としてお話をし、今後のお仕事の参考にさせて頂く(勿論自分の勉強)ためのものと言えるでしょう。

学習内容は、「課題別学習会」で「集落の自治と文化」、「学校週五日制及び総合的な学習」など六課題。「分科会」は、「若者の学びと文化」、「高齢者の活力を生み出す学習・文化」、「暮らしの中に根づく図書館」など二十一分科会でした。

その中で「字公民館と地域づくり」の分科会で、「公



民館活動のあり方を学ぶ・活動は地域に根ざした遊びの文化」という題で、事例発表を行いました。

「字」と言うのは特に沖縄で「集落」を指して使っています。竜丘で言えば分館のことですが、こうした活動が各地で続けられて行くことと思えます。全国それぞれの地域で活動状況が実に千差万別共通していることは高齢化と若者の地域離れの傾向が感じられました。地域づくりは、住民の親睦か